

しち てん はっ き 七 転 八 起

校訓：自主・協同・創造

学校通信 NO. 10
令和5年10月6日

「挑戦」がレベルを高める！

～令和の時代の成長法～

2学期がスタートし、9月末には、三木市新人体育大会が行われました。

三木市新人大会では、日々、積み重ねられた練習の成果が発揮されました。

10月になると、第35回文化祭が行われます。そうした行事では、主体的に活躍する子どもたちの姿を見る度に成長を感じて、嬉しくなります。今回は、「挑戦していけば自分のレベルが高まる」という成長の話をしていきます。

今年の3月に開催されたWBC(ワールドベースボールクラシック)で、3大会ぶり3度目となる世界一に輝いた侍ジャパンは、その快挙で日本中に歓喜の渦を巻き起こし、感動と勇気を与えてくれました。世界の頂点を掴んだチームを率いた栗山英樹監督が、WBCを通じて多くの学びを得たと著書に書かれていました。

今は、どの世界でも厳しく指導することが難しい時代になったと言われます。「もう一回、一からやり直せ」と否定されながら練習を繰り返す方法では、成長が難しい時代です。『論語』の一節で、「之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」とあるように、今やっていることを楽しむことが大事。練習＝苦痛ではなく、練習＝楽しいという価値観を持つことだと。

大谷翔平を身近で見てきた監督は、大谷翔平のことを努力している感覚がゼロだと称賛しています。「こんなバッティングができれば、みんな喜んでくれるだろうな」「こんなボールを投げたら、みんな驚くだろうな」「自分も嬉しいな」。

大谷翔平は、それが楽しくてずっと練習しているので、自然と練習量が誰よりも多くなっていくそうです。

普通の人たちは、「できるか、できないか」という考え方をして、できないからやらないと考えます。大谷翔平のように、できないことをできるようになるから嬉しいとは考えません。大谷翔平のような人は、「できるか、できないか」ではなく、「やるか、やらないか」と考え、仮にできなくても、そこに「挑戦することが自分のレベルを高める」と考えているのだそうです。

その差は、自分の中でスイッチが入っているかどうかで、そのスイッチも、「自分で考えて自分で決めて自分でやって自分でうまくなる」そんな自分でしか押せないスイッチだと言っています。これが、主体性の大事なところなのです。

10月の大きな行事として、第35回文化祭が行われます。体育大会のときと同じく、子どもたちが主体となり、新しいことに挑戦していきます。まさにこの「挑戦」を大切にするときなのです。

校長 高森 伸彦

文化祭について

10月27日(金)、第35回文化祭が行われます。午前中は、体育館でのステージ発表です。吹奏楽部の演奏も体育館で披露されます。また、4年ぶりに合唱も行われます。今年の文化祭は、生徒会劇、体育科ダンス、有志発表をします。午後からの展示では、各教科や美術部の作品が展示されます。体育大会と同様、生徒会の子どもたちが主体となり、創造力を発揮した文化祭が行われます。今年の子どもたちも、いろいろなことに挑戦しています。子どもたちの活躍をぜひ見ていただきたいと思います。

三木市駅伝・東播新人大会開催

10月7日(土)北播駅伝兼三木市駅伝が加西市立善防中学校で開催されました。いよいよ駅伝シーズンの始まりです。東播・県での活躍を期待しています。また、三木市新人大会において、男子ソフトテニス部、山本・黒田晴ペアが優勝、板倉・黒田凰ペアがベスト6で、10月8日(日)吉川総合公園にて東播新人大会が開催されました。熱戦が繰り広げられ、山本・黒田晴ペアが県大会の切符を手に入れました。また、ソフトボール部も10月14日(土)ガルテン八千代グラウンドにて、東播新人大会が開催されます。一戦一戦集中し、県大会出場を目指してください。

